

娘あゆみと過ごしたロスの1500日

留学

ウォーズ

*The Battle Studying
Abroad*

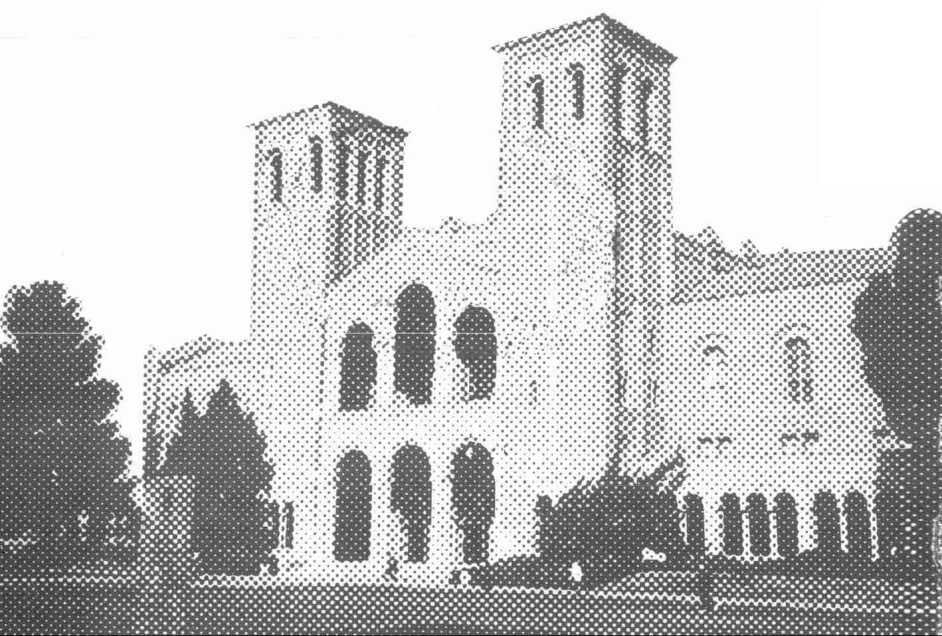
馬場信浩

講談社

学ウォーズ

と過ごしたロスの1500日

信浩



留学ウォーズ

定価は、カバーに表示してあります。

1994年2月25日 第1刷発行

著 者 馬場信浩

編 集 講談社インターナショナル株式会社

発 行 者 野間佐和子

発 行 所 株式会社講談社

東京都文京区音羽2-12-21 〒112-01

電話 (販売部) 03-5395-3622

(製作部) 03-5395-3615

講談社インターナショナル株式会社

東京都文京区音羽1-17-14 〒112

電話 (編集局) 03-3944-6493

印 刷 所 株式会社廣済堂

製 本 所 牧製本印刷株式会社

落丁本・乱丁本は、講談社書籍製作部あてにお送りください。送料小社負担にてお取り替えいたします。なお、この本についてのお問い合わせは、講談社インターナショナル編集局あてにお願いします。

Copyright © Baba, Nobuhiro 1994. Printed in Japan

本書の無断複写（コピー）は著作権法上での例外を除き、禁じられています。

ISBN4-06-206804-4

(インター)

はじめに

一九九三年八月七日午前九時。

さわやかな夏の朝でした。カラフルな装いの若い男女が参集してきます。彼らの緊張と期待に満ちた顔は晴れやかです。目はキラキラと輝いています。

UCLA（カリフォルニア州立大学ロスアンゼルス校）の入学ならびに転入学受付が、キャンパス内の「スプロールホール」で始まったのです。

同時に入寮手続きも行われます。すでに九月からの授業ガイダンスが終わっています。このガイダンスは日本の大学とは違い、一人一人面接して行われました。それぞれ専門のカウンセラー職員がつき、新入生の提出した資料にのっとり、取るコースから寮での生活、すべての相談にのってくれます。これぞガイダンスであります。

その結果、心理学部への転入生である私の娘には、夏のプレコースが紹介され、それにも参加

できることになりました。

「エエッ！」

驚いたことに、この夏の授業料も寮費も無料なのです。一カ月もの食費を州費から出してくれるのです。もちろん受けた授業は単位として認めてくれます。受けない手はありません。

続々とアメリカ全土から、いえ世界中から集まった学生たちが入学ならびに転入学受付の列に並びます。それを列外から親たちが見ています。私もこの親たちの一人として娘を見ておりました。ふと思いついたことがあります。

日本の某新聞のコラムで東大の入学式に親がついてきているのを、

「いつまでも子離れ、親離れのできないやから」

と皮肉っているのを読んだことがあります。東大新入生がいつまでも親と一緒にいるのを嘆いたものです。

当時、このコラムに大いに納得し、拍手をおくったものです。私も大学の入学式に親についてきてもらった記憶はありません。手続きはすべて自分ですませ、入学式にも一人で行きました。当然と思っておりました。

このことを今、私の母に聞いてみますと、

「息子や娘の入学式に参列したくない親がどこにいるか。できれば、お前についていきたくった。しかし、東京までの交通費や滞在費を考えたら、お前一人を出すのがやっとで、とてもでき

なかったただけだ」

と言われてしまったのです。母はこうも言いました。

「親が入学式に参列しないのは、その子の入った大学に満足してないからだ。駅弁大学や塵^{ちり}ため大学などに、誰がついていくもんか」

私の入った明治大学も、母によれば駅弁大学か塵^{ちり}ため大学としか映らなかったのかもしれない。なにしろ昔の明治大学ですから。

UCLAに息子や娘を入れた親たちが、続々とホールの前に集まってきました。あれほど独立心の強いアメリカの青年たちが親を連れてきているのです。

親たちの顔には誇らしさが満ち満ちていました。私は寮に荷物を運ぶ運転手のつもりでしたから、ラフな格好をしておりました。ところが他の親たちはみんな背広にネクタイ姿です。みすばらしい格好をしてきている私は、場違いなものを感じてウロウロしてしまいました。するとです。

「この日を夢に見てきたのです」

そう隣でつぶやく声が耳に入りました。つぶやいたのは中年のメキシコ系アメリカ人男性でした。その表情は満足そうで、日焼けした顔が輝いています。あとで知るのですが、転入学生ペドロ君のお父さんだったのです。彼らはメキシコからの移民です。タコスやブリトーを売りながら、息子をUCLAに入れたのです。

「多くの日系人たちがそうだったように、私たちも自分は犠牲になってもかまわないのです。でも娘や息子はよい教育を、と思っています」

楽天的なメキシコ人の中にあつて、この考え方をする人たちは希有^{レア}なのです。かつての日系人たちの子弟教育によせる献身的努力を今、メキシコ系アメリカ人にみることが出来ます。

ペドロ君はすでにカレッジで日本語の基礎を習ってきています。盛んに日本語でわれわれに話しかけてきます。それがなかなかのものなのです。アメリカの語学教育の進んだ点をみる思いがします。

「われわれ黒人の生活を一步でも前進させるには、教育しかありません」

娘のキャシーさんを列におくりだした黒人女性のナタリーさんは満足そうです。キャシーさんはハツと目をひく美人です。黒人特有ののびやかなスタイルといい、表情といい、歩くだけでさわやかな風が起こりそうです。このまま映画女優に推薦できます。スターになってもおかしくないほどルックスがよいのです。

多くの白人の親たちに混じつて、笑顔を絶やさない中国人の両親、おずおずとしているヴェトナム人の家族、サリーをまとったインド人の母親、興奮している韓国人の兄弟など、家族の待機場所に当てられた広場は、英語、スペイン語、中国語、韓国語、そして日本語と各国の言葉で喧騒^{けんそう}を増しました。

「今日までこられたのは君たち自身の力だけではない。多くの協力者の力の結果があつたから

だ。まずその人たちに感謝し、今日を迎えることのできた喜びを分かちあおう」

そう言ったのは新入生の諸事を担当するアドルフ主事でした。アドルフ主事の言葉にハンカチを目に当てる親も多かったです。

思えば、長い年月でした。娘のあゆみが神奈川県湘南高校の受験に失敗し、アメリカの高校に留学、UCLAを目指した日々の長かったこと、それはもうため息ものです。

その年月の労苦を洗い流してくれるのが、この日のセレモニーでした。

私は今、日本全国の大学の入学式に親や家族がついていくべきだと思っています。入学の喜びは本人だけのものではありません。家族の喜びでもあるからです。なぜなら家族も一緒に受験していたはずですから。

手続きが完了し、われわれが引き揚げるときがきました。私は娘に、

「それでは」

と声をかけていました。奇妙な言葉でしたが、これでよかったと思っています。五年前にも私は同じ言葉を娘にかけています。一五歳で娘を一人アメリカにおいてきたときも「それでは」と声をかけ、引き揚げてきたのでした。

留学ウオーズ——目次

はじめに ー

第一章 私たちの奮戦記

高校受験失敗……	13
意味のない嫉妬……	18
敗者復活を賭けて……	22
吉田教授のアドバイス……	26
オーハイに決める……	29
アメリカでの第一歩……	32
息子はどうかするか……	38
アジアの同胞として……	42
「家族でアメリカへ」の決心……	45
新しい隣人たち……	48
夜学に通う……	52

第二章 アメリカ留学の現状

円高留学生……	57
アメリカの大学は入りやすいか……	60

アメリカの教育事情……………63

公教育が破綻している原因……………64

日本人のヘンリー・ウオード……………69

アメリカ人子弟と殴り合う息子……………73

サムライの子はサムライ……………77

英雄になった息子……………82

アメリカ私立高の抱える問題……………85

こんな留学生は送還しろ……………89

国辱留学生オンパレード……………91

●肉體誇示派……………91

●無目的派（別名・食って寝るだけ派）……………94

●完全遊び派……………96

●英語を勉強しない派……………103

●日本人を見たら無視する派……………105

●「先輩、後輩」をもち込む「けじめ派」……………107

●集合離散の法則派……………108

●お決まりドラッグ派……………110

●血液検査に日本へ帰るエイズ派……………113

今日も日本のアホは健在です……………116

第3章 英語の壁は厚いぞ

簡単には伸びない英語力……………121

中国からの天才少女……………125

子供たちは泣いている……………130

教師の質という問題	134
-----------	-----

日本人仲間からの反発	138
------------	-----

家では日本語、学校では英語（英語オンリーが英語力をそぐ）	141
------------------------------	-----

TOEFLのもつ意味	144
------------	-----

キャンパス英語と生活英語は大違い	146
------------------	-----

最低三年！（TVのトークショウで笑えるか）	149
-----------------------	-----

究極の英語勉強法	150
----------	-----

ブラムダンスと娘の王子さま	153
---------------	-----

第4章 避けられない問題

アメリカ人のセックス好き	159
--------------	-----

ヴェトナム戦争が残したもの	164
---------------	-----

アメリカの奇妙な男女関係	167
--------------	-----

断固、日本人として生きる	169
--------------	-----

アジア人との共存	171
----------	-----

第5章 ここが違う、アメリカ文化と日本文化

日本異質論	181
-------	-----

アメリカは大きい	183
----------	-----

自己主張の国アメリカ	187
------------	-----

五分先しか考えないアメリカ人（簡単に嘘をつく）	190
-------------------------	-----

沈黙が金か、雄弁が金か	192
-------------	-----

独創性で独走するアメリカ	195
--------------	-----

第6章 成功者はどこが違う？

うまくいった例、うまくいかなかった例……………203

八五パーセントは落ちこぼれる……………206

●資金が続かなくなった例……………206

●両親や家族に不幸が起きた場合……………209

●選んだ大学の閉鎖や単位縮小のため……………210

韓国人は八五パーセント成功する……………211

ひとりぼっちの「パラシュート・キッズ」……………213

留学は「夢」よりも「ヴィジョン」……………215

第7章 大学への道

「UCLAへ行きたい」……………225

魔法のビザ……………231

グリーンカードのすごい威力……………233

五〇〇分の一の確率……………236

多くのアメリカ人の協力を得て……………241

地獄の面接……………245

グリーンカード取得で得たもの、失ったもの……………252

私立からバブリックへ……………255

ロス暴動と韓国人の悲劇……………258

一発勝負の日本……………262

敗者復活戦のあるアメリカ……………266

アメリカもやはり有名大学志向……………271

第8章 帰国子女たちの前途

帰国子女枠という甘いワナ……………279

レストランのウェイトレスから皇太子妃まで……………284

英語大バーゲン（希少価値が薄れる）……………288

留学生はアメリカに残る……………293

第9章 殺される留学生

純社会が服部君を殺したのか……………301

「イエロー・モンキー」感覚……………304

知識人の沈黙……………309

服部君の死を「犬死に」てなくするために……………310

第10章 わが家はこう決めた

二度と受験はさせない……………317

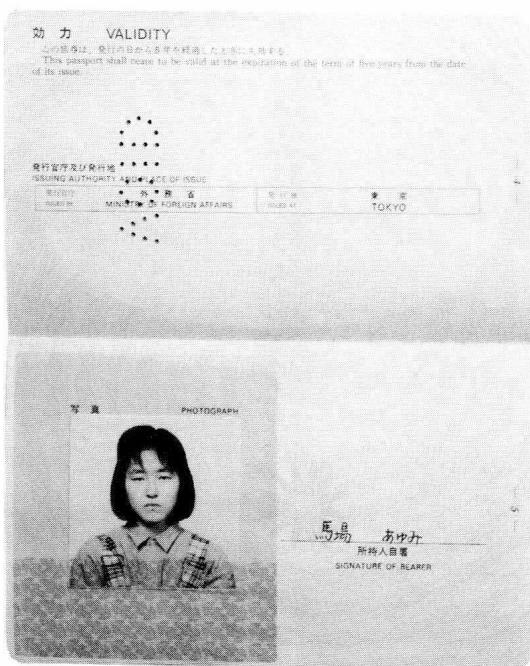
孫は日本で中等教育を受けさせる……………318

留学は家族そろって、の覚悟で……………320

とうとうやってきた転入学許可……………322

第1章

私たちの奮戦記



娘あゆみの渡米時のパスポート写真。受験失敗1ヵ月後、まだ傷が癒えていないので、なんとも情けない顔です。

高校受験失敗

一九八八年三月二日。

私はその日のことを忘れることができません。

娘のあゆみが、神奈川県湘南高校の入試に落ちたのです。

冷たい朝でした。古い学舎と泥田のようなグラウンドの感触だけが私に残っています。泣きじやくる娘を抱えて歩いた道のりの長かったことが、今も痛みとしてよみがえります。

高校の入試失敗は世間によくあることであります。このことをいつまでもくよくよ言うのは思い切りの悪い奴と笑われるでしょう。でも、なぜ娘をアメリカに出したかを語る場合、この入試失敗から始めなければなりません。受験失敗は、ともすれば被害者意識が強くなります。その意識だけは出したいくないのですが、女々しいと思われるのを覚悟で記しておきます。

今思えば、名門という名に惑わされて湘南高校を受けさせた私が馬鹿でありました。

それにはちよつとした意地があつたのです。中学一年の一学期に、娘は奇妙ないじめにあいました。クラスで、

「M子ちゃんが煙草を吸っている」

との噂が流れたのです。その噂を流したのがわが娘のあゆみである、とクラスで中傷されたのです。チクリというやつです。いじめはこれから始まりました。

クラスの何人かが娘を無視する行動にでました。クラス仲間で映画見物や誕生日会などがこっそり計画されました。これをあゆみ抜きでやるのです。ほかに、廊下を歩いていて目が合うと、いっせいに逸_そらすやり方もありました。シカトです。これはかなりこたえるらしく、

「映画なんか自分一人で観にいくからいいわ。けれど理由のわからない八分_{はちぶ}は我慢ならない」

と娘はいやがらせの実態をもらしました。

「いじめは誰か煽動している者がいる。その子とじっくり話し合ってみるべきだ。それから、変な噂など自分はばらまいていないこと、名誉を回復してほしいことなど担任の先生によく頼むんだ」

と私はアドバイスをしました。このとき、担任のYは、

「善処します」

と約束してくれたので、安心してしまったのです。ところが煙草を吸ったといわれたM子が登校拒否を起こしてしまいました。事態は思わぬ方向へ進展してしまったのです。登校拒否の原因